

桜

工

A-40

$\theta = 45^\circ$

$s = 3$

1963-31

日本大学工科学友会

桜工

日本大学工科校友会誌
1963/VoL. 8/No.31

- **■新卒業生の座談会** 『生涯の友を得ました』……………(5)
山本忠雄・樋渡惟訓・波間美佐子・久田
高義・田村 崇・藤波和之・石井宏尚・
山本紘治/司会 幸田太一
- **就職1年の生活と意見(上)**……………(31)
建築/羽生昌弘君の場合(鹿島建設)
薬学/木脇雅継君の場合(ウチナ)
機械/星野 昭君の場合(プリンス)
- **■創意と協力**……………松本太郎…………(4)
- **■人・技術・こころ**……………執行岩根…………(24)
- **今様三題・友人教/作戦要務**
令/素人と専門家……………神田正信…………(13)
■ **粉体随想**……………今木清康…………(16)
■ **ガスの燃焼**……………市川次良…………(28)
- **支部だより・石川桜工会で集い/神奈川支
部で新年幹部会/岩手支部で総会** ■ **会合だ
より・蜂電会ひらく/桜経会で発会式/新
年有志理事懇親会/あきとし会総会/工化
同窓会/東京都建設局支部** ■ **学友短信・二
六会だより/ほか**……………(34)
- **グラビア** よく学びよく楽しむ・ラグビー/スキー/ワンダーフ
オーゲル/混声合唱/応援団/柔道/空手/合気道/落語/書道
/美術/硬球テニス <解説>無試験入会許可……………(23)

■表紙解説は16~18ページをごらんください

桜工/第31号

昭和38年3月20日印刷/25

日発行

編集兼発行人/高木政司

発行/日本大学工科校友会

東京都千代田区神田駿河

台1の8/電話東京(291)

3351 内線 206/振替東京

162710

本文印刷/鉄鋼新聞印刷部

グラビア/スターグラビア

会誌委員 幸田太一/下青木秀吉/篠本勝美/藤田 幹/笠井芳夫/大内 順/新沢
順悦/篠原博/寺内良郎/大塚喜作/宮尾利政/谷原 齊/山内 盛

粉 体 随 想

■表紙にちなんで



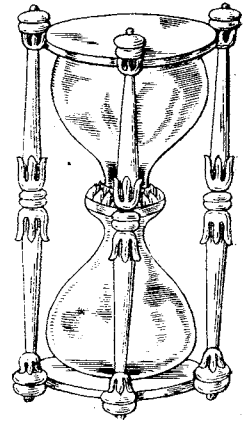
今 木 清 康

■武蔵野にて

私の家は都心より少し離れた、武蔵野の面影をわずかにとどめた、赤松の雑木林に囲まれた一隅にある。狭いながらも楽しいわが家、早春の昼さがり、南陽を休いっぱいに浴びながらレコードなどを聴く。私にはこれといった趣味もない。しかし、北陸で育った私には、冬期の太陽は万金に価する暖かいおくりものである。とくに天気の良い日曜日などは、たいてい子供たちをつれて猫の類ほどの庭からぬけだし、広大な林へと逃避する。

武蔵野の春は遅い。都心に甘い梅の香りがたどよう頃でも、このあたりのつぼみはまだ硬い。この雑木林は、周囲1里にわたって広がっている。格好の散歩コースになる。この森でひとときわ高くそびえる赤松の雄姿は、何ととっても森での女王格で、下から見上げると、穂先が真蒼な空を支え、樹漏れ目がかがやいてじつに美しい。このような時私はいつもシュトルムの「インメンゼー」の一節を想い出し、口ずさむ。

春先きの野草も美しい。あちらこちらと山菜をさがしまわる童女の数も多い。3つになる女の子が、芽生えたばかりのりんどうを摘んで来る。りんどうの茎は蒼白く弱々しいので、根元からすぐ折れてしまう。しかし子どもには大切なものらしく、さも満足そうに持ちあるく。5つの男の子の



8世紀ごろにつくられたフランスの砂時計

遊びは少しばかり乱暴である。花などにはほとんど興味がない。山菜をけちらし、かけずりまわり、動くものであれば何でも手でさわる癖がある。小川に沿って下ったところで、狂ったように動き回る黒い蟻の群を発見した。こんな時彼の頭脳はぴくりと動く。

■蟻の世界でのこと

求められるままに私も、小川のせせらぎを聞きながら腰をおろし、昔読んだ動物記の1章を想い浮かべながら、蟻の生活を話した。しかし、このことが仇となって、数日はしぶい顔をした妻と生活を共にせざるを得なかった。それは、不本意ながら蟻を持ち帰って育て、観察することになったからである。2、3日彼はたゆみなく運び続け、驚くほど複雑な巣を作る蟻に、いささか驚異の目をみはっていた。

1個1個小さな砂を運び続ける蟻の世界は、あまりにも現実の人間の社会とかけ離れているからであろうか。しかし蟻は砂の性質をじつに良く知っている。それをたくみに活用して巣を作る。人間の世界に人工衛星がとんでいても、蟻の世界は数千年前の生活と変わらない。熱帯の砂漠に棲息する蟻は、水を求めて、数百メートルの地中を掘り進むと聞いている。私は粉体に興味もっている関係から、このようなとき少しばかり理屈っぽ